

# 千秀だより

横浜市立千秀小学校

2月号

平成26年(2014). 2. 3



寒さの中に花は咲く、寒さがあってこそ花は咲く

校長 市川 幸 男

校庭の紅梅が一つまた一つと花を咲かせ、寒い中にも春の訪れを告げてくれる季節となりました。残すところ今年度の授業日も35日(6年生は33日)になります。年度末を控え、学校では子ども達が、今年度をしっかりと整え、新しい世界、新しい学年を希望をもって迎えられよう、まとめを進めております。ご家庭でもよろしくご協力お願いいたします。

先日、江戸時代の儒学者の貝原益軒の本を読む機会に恵まれました。その中で子どもを育てるにあたって、大変印象的なことを述べていましたので、学校だよりの紙面を借りて、皆様に紹介したいと思います。原文では『衣服をあつくし、乳食にあかしむれば必ず病多し。衣をうすくし、食をすくなくすれば病すくなし。・・・小児の初生には、ふるき衣を改めぬいて着せしむべし。絹の新しくして温なるは、熱を生じて病となる。古いことわざに、凡そ小児を安からしむるには、三分の飢えと寒さを帯ぶべし』とあります。「和俗童子訓」の一節です。「子どもがかわいいと思うなら、三分のひもじさと三分の寒さを残しておく」ということでしょうか。この「三分の飢えと寒さ」という益軒の教えは、江戸時代、寺子屋を中心として大切なことと教え継がれたそうです。お腹がすいた時に食べる食事は、とてもありがたく、より美味しく感じるができます。また、寒さを経験することにより、暖かなところにいることに感謝できるものです。こういった厳しさの体験を積ませることは、現在の豊かな時代に忘れかけていた子育ての原則であるとも感じられます。振り返ってみると「風が強いから車で迎えに来て」「雨が降ったから学校へ送って行って」「忘れ物したから持ってきて」こんなこと、子どもから言われたことないでしょうか？風が強いなら前かがみになりながら帰り、雨が降っているなら傘を差して長靴を履いて水溜りでチャプチャプしながら学校へ行く。また、忘れ物をしたなら学校の先生に叱られることで、忘れ物をしたらいけないということを身につける。例は極端なものかもしれませんが、寒さの中、けなげに春の魁となって咲いている梅の花を見て、そんなことを思いました。

さて、2月は千秀フェスティバルや地域との合同の防災訓練、持久走月間、東京見学(6年)など、多くの行事や活動を予定しております。

千秀フェスティバルでは、子ども達が1年間、生活科や総合的な学習の時間で学んできたことをご来校の皆様にご紹介するとともに、それを話題とした会話を広げ、コミュニケーション力の育成も視野に入れた活動です。子ども達は、保護者や地域の皆様との言葉のキャッチボールを楽しみに、プレゼンづくりにいそしんでいるところです。休日の土曜ではありますが、どうぞたくさんのご来校をお願いいたします。

また、千秀小学校では2年に一度、授業時間の扱いで地域と合同の防災訓練を実施しております。今年度がその開催年に当たり、23日(日)に実施いたします。今回の訓練は「栄区セーフコミュニティ認証記念」という冠を付け、区・地域・企業・学校が協力して、大規模地震の発生を想定した取り組みを行います。学校の取り組みとしては地震が発生してからの避難、安全確保、そして保護者の皆様への児童引き渡しまでを、学校防災マニュアルに沿った形で実施したいと計画しております。保護者の皆様には、2週続けて休日を使つての授業となりますが、子ども達のいろいろな体験の様子をごらんいただくとともに、地域との触れ合いの機会としていただければ幸いです。尚、千秀フェスティバル・防災訓練の詳細につきましては、別紙面にてご案内いたします。よろしくご理解下さい。